

風土記の丘を訪ねて

よみがえ 甦るロマン!
時を超え、太古に旅する。



県が「風土記ヶ丘」整備の一環として進めていた「古代の森」オブサン古墳公園」が山鹿市の新名所として、このほど誕生しました。これより先、59年には菊水町に「石人ヶ丘」も完成。既存の古墳群とあわせて、一大歴史ゾーンが整備されつつあります。熊本は装飾古墳のメッカ。現在全国にある四〇〇余基の約半数を占め、中でも、菊池川流域にはその大半が集中しています。

風土記ヶ丘構想は、祖先が築き、今日まで残されてきた文化財を、開発による破壊から守り、自然環境と一体的に整備して活用して行こうというものです。

山鹿市、鹿央町、菊水町にまたがる歴史体験ゾーン。家族連れで、グループで、古代のロマンを探訪してみたいかかでしょうか。

▼仁徳天皇陵に似た前方後円墳「江田船山古墳」。墳長61メートルで、5世紀後半の築造とされる。日本最古の漢字が刻まれた太刀の出土で知られている。



▲鹿央町にある「岩原古墳」。全長102メートルは県下最大規模。美しい姿をもつ前方後円墳が完全な形で残り、大小の円墳群がとりまいている。



◀「虚空蔵塚古墳」。清原古墳群の一つ。全長約52メートル、帆立貝式の前方後円墳。墳頂に虚空蔵菩薩がまつられていることからこの名がある。



▼「塚坊主古墳」。清原古墳群の一つ。前方後円墳で家形石棺が置かれ、棺壁に装飾があると伝えられている。



▲「江田船山古墳」とともに、菊水町清原古墳群のシンボル「石人の丘」。附近から石人、腰掛形石製品、家形石製品の3個が発見されたことに、この名が由来する。広場はピクニック客などでにぎわっている。



▲山鹿市立博物館の東側に隣接する「古代の森」のシンボル、催し広場。ステージには、山鹿市の鍋田横穴27号墓、長岩横穴108号墓が完全な形で復元され彫り込まれている。



▲催し広場につづくひっそりとした杉木立のなか、木レンガの遊歩道沿いには、山鹿や玉名の代表的な装飾横穴墓のレプリカ(複製品)が展示されている。



▲「古代の森」から約500メートル北の丘陵にある「オブサン古墳」。全国でも珍しい「突堤付円墳」が見もので、棺が納めてある奥室内の奥の部屋(石屋形)も見ることができる。



◀「オブサン古墳」の東側にある全長45メートルの前方後円墳「チブサン古墳」。中には家形の石棺があり、彩色した人物像や菱形・円形の独特な文様が描かれている。